

和光市協働事業実績報告書【平成25年度実施事業】

●事業概要

事業名	吹き矢で介護予防
-----	----------

事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	NPO法人ぼけっとステーション	長寿あんしん課

事業費	予算額	決算額
	372,750円	375,236円

事業内容 (実績)	<p>目的：介護予防の周知 成果：参加者の口腔機能向上、栄養改善 内容：吹き矢を取り入れた、口腔講座と栄養講座 サポートセンター広沢、向山地域センター、新倉北地域センター各2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回講座：口腔講座「お口元気 体の元気」 口腔体操、口腔セルフケア等 栄養講座「健康寿命をのばす食事」 バランスの良い食事のとり方、減塩について 食材の選び方、簡単デモンストレーション 吹き矢 基本動作の指導、5m 7mの距離で実施測定 試食と第1回講座の感想発表、宿題配布 ・第2回講座：口腔講座 ふりかえり、宿題回収 吹き矢 測定して前回と比較、グループで競い合い 修了証、個人賞の発表、感想発表、宿題の評価返却 <p>☆「吹き矢」自主サークル化に向けて 2/5(水) サポートセンター広沢にて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹き矢を楽しむ ・自主サークル化に向けて説明と話し合い <p style="text-align: center;">↓</p> <p>吹き矢サークル「みんなの会」 誕生 2/26(水)・3/12(水)・4/9(水)・4/23(水) に実施済 今後、12月まで場所を確保してある。</p>
--------------	---

●事業結果

	当初	実績
事業 スケジュール	第1四半期：講義の打ち合わせ	4月：事業所内の打ち合わせ 5月：長寿あんしん課と打ち合わせ サポートセンター広沢下見 事業所内の打ち合わせ 6月：歯科衛生士と打ち合わせ
	第2四半期：講義資料作成、 募集・受付	7月：サポートセンター広沢講座募集、広報・自治会等 7/29（月）：サポートセンター広沢第1回講座 19名 8/19（月）：サポートセンター広沢第2回講座 15名 9月：新倉北地域センター講座募集、広報・包括・自治会等 9/13（金）：新倉北地域センター第1回講座 13名
	第3四半期：事業開始	10月：向山地域センター講座募集、広報・包括・自治会等 10/17（木）：向山地域センター第1回講座 5名 10/25（金）新倉北地域センター第2回講座 7名 11/14（木）向山地域センター第2回目 10名
	第4四半期： ・事業評価 ・「吹き矢」の自主サークル化に向けて	1月：自主サークル化に向けて 事務所内打ち合わせ・参加者へ話し合い参加への通知発送 2/5（水）サポートセンター広沢 自主サークルに向けての話し合い・吹き矢を楽しむ。この場で、次回以降も吹き矢を続ける方向で話が進んだので、「吹き矢サークル」がメンバー8名で誕生。
事業変更理由	実施場所を地域密着特定施設等で行いたいが、場所が狭く吹き矢の広さをとれなかったり、日程が合わず、サポート広沢以外は、地域センターを使用することになった。	

●事業成果指標

		当初	実績
団 体	事業成果 指標	<ul style="list-style-type: none"> • 吹き矢の効果で口腔機能向上 • 介護予防の必要性の周知 • 地域密着型特定施設の周知 	<ul style="list-style-type: none"> • 歯科受診はするが、口腔機能向上についての話を聞く機会がなく、真剣に講座を聞き、質問も多く、知識が習得できている。 • 吹き矢が始まると、知らない同士でもすぐに打ち解けて会話がはずみ、笑顔がうまれる。 • 地域密着型特定施設の存在は知っているが、何をしているところかわからない人が多かったが、周知することができた。 • 自主サークル化にし、参加することで、定期的に外出ができる。当番制で準備をするが、自分の責任を果たし、しっかりと仕事をしているところが見受けられる。 • 5回を終了して、吹き矢で的を的確に狙うことが、できるようになっている。(得点が上がっている)
	コメント	自主サークル化に向けて、説明をしたところ、すぐにでも行いたいと思う方が多く、1回の説明会で作ることができた。	
担 当 課	事業成果 指標	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔機能向上 • 介護予防の周知 • 地域密着型施設の周知 	<ul style="list-style-type: none"> • 講座後のアンケートにて、口腔ケアに取り組みはじめる方が多くみられた。 • 介護予防（特に口腔や栄養）の周知ができた。 • 地域密着型施設を利用し、そこで自主グループ活動がスタートした。
	コメント	吹き矢の自主グループが立ち上がり、今後も継続して活動できるような取り組みが行えた。	

【ヒアリングより】

- 第2回講義終了時に、宿題の効果と当日の吹き矢の点数を入れた結果表を渡した。くもの巣グラフを用いて、第1回との差がひと目で分かるよう工夫したことで、受講者も大変喜んだ。
- 吹き矢が目的で受講した人が大半であったが、中には口腔機能を向上したいとの思いで受講した人もいた。

- ・サークル活動は月2回行っている。現在サークルには、道具の貸出で関わっている。
- ・サークルを立ち上げ、定期的に外出することは、口腔機能の向上だけでなく、引きこもりの防止にもつながる。
- ・作業リストを作成してサークルに渡したところ、自発的に準備、片付け、施設予約を行っている。出来ることは自分たちで行うことが、介護予防につながる。サークル立ち上げの際に、始めだからとスタッフが色々やってしまうと自分たちで行動する気持ちを無くしてしまうため、立ち上げ時はそこに気をつけ、極力サークルメンバーに仕事をやってもらった。
- ・リーダー、責任者になるのは億劫だと感じる人が多くおり、当番制を提案した。サークル立ち上げのサポートをするには、上の立場からではなく、提案するつもりで話すと良いことが分かった。
- ・サークル立ち上げのノウハウが持てたということは、団体にとって大きな強みになる。

事業を実施し、想定以上の効果があったか。	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・はい ・2回の講座でも、間に宿題に取り組み、口腔機能向上をしたと実感された方がいた。 ・自主サークル活動が立ち上がり、定期的に（月2回）吹き矢を行うことができています。 ・自主サークルに参加することで、吹き矢の的を的確にしていることができるようになっている。（しっかりと口を使って吹き矢をすることが、口腔機能向上につながっていると思われる。）
	担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・はい ・2日間であるが、口腔機能向上についての意識啓発もでき、参加者も講座で学んだことを日常生活で実践することにつながっている。 ・講座内容でセルフトレーニングの紹介を行ったことが上記の点にもつながっているのではないかと ・単に口腔ケアの講座だけではなく、吹き矢と同時に行ったことで講座も好評でやる気につながった。

●協働の結果

(1) プロセスの積み重ね

	団体	担当課
①事業進捗状況の報告を行っていましたか。	はい	はい
②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。	はい	はい

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組みましたか。

	団体	担当課
①「相互理解の原則」	はい	はい
②「目的・評価共有の原則」	はい	はい
③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	はい

役割分担について

	当初	実績
団体	行政 ・事業実施施設の調整（長寿） ・広報わこうによる募集（長寿） ・自治会への周知（市活） ・事業結果の検討・研究（長寿） ぼけっとステーション ・講座の受付 ・問い合わせの対応 ・講座実施 ・報告書の作成 ・自主サークルサポート	当初の通り実施できた。
担当課	事業企画を事業実施団体と一緒にやる。	参加者周知をちらし等で行ったが、地域によっては参加者が集まらなかった。

役割分担の中で良かった点や改善点をご記入ください。

団体	改善点 自治会への周知が遅かったため、もう少し早く行えるとよかった。
----	---------------------------------------

協働事業の実施にあたり、どのようなメディアを活用して事業のPRをしましたか。その代表的事例を左欄に記入し、また、協働事業の実施により、事業の社会的認知度が向上したかどうかを、右の欄にその理由と併せてご記入ください。

団体	【PR事例】 和光市広報 自治会にチラシ配布 市や団地の掲示板	【社会的認知度の向上】 広報を見てきた人も多いが、自治会の回覧板や老人会で配られたチラシの効果が高かった。
----	--	--

情報公開について、どのような手段で情報発信をしましたか。

担当課	ホームページやチラシ配付による周知を行った。
-----	------------------------

【ヒアリングより】

- 自治会の回覧板を見た受講者が多くいたので、自治会の集会等に合わせて事業日程を組んでも良かったかもしれない。

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団体	【団体のメリット】 他の団体とつながりができた。(今回の場合、市役所 歯科衛生士 自治会など) 自主サークルの作り方を学べた。
	【市のメリット】 ・市民に対する介護予防教室の一つができた。 ・サークルができたことにより、健康でいるための社会資源が一つ増えた。
	【市民のメリット】 ・参加した方は、感想の通り、得るものがあった。 ・サークルができたことにより、毎月2回の楽しみが増えた。
担当課	【市のメリット】 事業終了後の自主グループのサポートなど地域の団体としてかかわっていただけ。

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは何ですか。

団体	苦労したのは周知と集客。人が集まりやすいところだとすぐに定員に達するが、中心部から離れると集客が困難になる。
担当課	事業の周知方法に改善が必要と思われる。

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがあれば、下の左の欄にご記入ください。また、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているか、右の欄にご記入ください。

団体	【成果のアピール】 吹き矢のサークルをすることにより、楽しみながら口腔機能向上をする場が、定期的に設けられた。立ち上げの手伝いを少しすることで、実現できたことは良かった。	【事業の発展への貢献】 H26年4月より、「まちかど健康相談室」を開所しましたので、地域力を引き上げ、また新たに自主サークルを作り、市民の介護予防をすすめていきたいと思う。
----	---	--

協働事業を実施した率直な感想をご記入ください（良かった点、苦労した点、印象に残っていること、事務量的変化・協働に対する意識の変化等があったか等）。

担当課	<ul style="list-style-type: none">・市民活動見本市に参加をしていただき、事業の周知を行っていただいたが、介護保険ではない場で周知できたことは事業の広がりにつながったと思う。・また、自主グループの立ち上げについても協働したことで実施することができた。
-----	--